

那須塩原のパン・アキモト

備蓄食料の賞味期限通知

システム開発、11日稼働

缶詰パン製造のパン・アキモト(那須塩原市東小屋、秋元義彦社長)は11日、災害備蓄用食料の賞味期限を通知するシステム「アキモトリマインダーサービス」を開始する。他社製品を含め備蓄食料を最大9商品登録でき、賞味期限の半年前からメールで通知することで、賞味期限切れで廃棄される備蓄食料を減らす考えだ。(伊藤一之)



パン・アキモトの備蓄用缶詰パン

他社製品含めメール配信

同社の缶詰パンの多くは卸売業や小売業を経由して企業や消費者に渡っており、どの缶詰パンがいつ賞味期限を迎えるのか分からないのが実情。同社には「賞味期限が切れたが、食べられるか」という問い合わせが毎日のように来るといふ。同社の缶詰パンの賞味期限は3年だが、賞味期限前に食べてもらいたいとの思いからシステムを開発した。

システム開発に当たっては、他社製品にも対応できるように汎用性を持たせた。秋元信彦取締役は「災害備蓄食料の賞味期限切れによる廃棄量は、全国17の都府県や政令都市だけでも過去5年間で176万食に上るといふ報道もあった。他の自治体や企業、個人を含めると相当な量になるため、他社製品も含め廃棄量全体を減らしたい」と説明する。

11日から同社ホームページで登録窓口を開設。名前、メールアドレス、電話番号、商品種類、賞味期限を入力すると、半年前、3カ月前、1カ月前の通知時期が選べ、その時期にメールが届く。商品種類も同社缶詰パンのほか、他社缶詰パン、アルファ化米、乾パン、飲料水、その他を選んで入力できる。登録は無料。

同社は9月以降、缶詰パンのデザインをQRコードを入れて一新し、携帯端末で読み取れば、同サービスの登録画面に入れるようになる。